

東海道五十三次切手すごろく

にほんばし
日本橋

始点

スタート



あさのけい
<朝之景>

まだうす暗いうちに
東海道の旅へ出発！

おおいそ
大磯



とらがめ
<虎ヶ雨>

虎という女性の悲しい涙が雨になつて降ってきたので、先を急ぐ

三つ進む

おだわら
小田原



さかわがわ
<酒匂川>

橋も舟もない川は人足にかつがれて渡る。
落ちないようにしっかりつかまって！

しながわ
品川

一



ひので
<日之出>

海からのぼる日の出がきれいで、歩くペースがアップ！

二つ進む

ひらつか
平塚

七



なわてみち
<縄手道>

田んぼの中をまっすぐな道は歩いても歩いても進んだ気がしない

一つ戻る

はこね
箱根

十



こすいす
<湖水図>

東海道で一番の難所。
急な山道はゆっくり進む 一回休み

かわさき
川崎

二



ろくごうわたしぶね
<六郷渡舟>

六郷川の渡し舟が混んでいて、一回休み

かながわ
神奈川

三



だいのけい
<台之景>

高台からの海のながめが見事。料理が評判の茶店で昼食を食べよう

四つ進む
戸塚



しんまちばし
<新町橋>

武蔵国一番西の宿場。
田園風景がひろがるのどかな雰囲気

★雑学メモ★

江戸時代の人は東京から京都までを約15日間かけて歩いて旅をしていました。1日約33キロ、7時間ぐらい歩いていたことになります。昔の人は足腰が丈夫ですね。

みしま
三島

十一



あさぎり
<朝霧>

朝早くに出発。寝ている人を起こさないよう、急な山道はゆっくり進む 一回休み 次の順番が来るまで黙っていよう

ぬまづ
沼津

十二



たそがれす
<黄昏図>

五十三次の中で月夜をえがいたのはこの一枚だけ 二つ進む

これらの切手は「国際文通週間」のシリーズ切手として発行されました。切手の発行年は、各切手に描かれています。ルーペで拡大しながら、浮世絵の中をじっくりと旅してみましょう。

十七

おきつ
興津



おきつがわ
<興津川>

興津川の渡し。力士二人組と
すれ違った。重そうで気の毒だ

えじり
江尻



みほえんぼう
<三保遠景>

五十三次の中で唯一、
人が描かれていない。
さみしくなって一つ戻る

十六
ゆい
由井



さったみね
<薩埵嶺>

難所のひとつだが
景色が見事。
峠でゆっくり休憩しよう
一回休み

十八

かなや
金谷



おおいがわえんがん
<大井川遠岸>

川を渡る料金は川の深さによって
変わる。今日は深いので高いぞ！

ふちゅう
府中



あべかわ
<安倍川>

名物の安倍川餅がおいしくて、
食べすぎて腹痛をおこす 一回休み

十五

かんばら
蒲原



よるのゆき
<夜之雪>

本来雪のふらない温暖な場所の
雪景色は、想像でえがかれた風景

二つ進む
にっさか
日坂



さよのなかやま
<佐夜ノ中山>

道のまん中にある
「夜泣き石」に手を
あわせてから進もう

十四

よしわら
吉原



ひだりふじ
<左富士>

三人乗りの馬に乗って進む。
自分より後ろにいる人を
二人この宿場に呼ぶ

はら
原



あさのふじ
<朝之富士>

雄大な富士山が見られる
絶景ポイント

二十六

かけがわ
掛川



たこあ
<秋葉山遠望>

帆揚げは五月に行う大人の遊び。
帆合戦は迫力満点だ

二つ進む

しまだ
嶋田



おおいがわすんがん
<大井川駿岸>

大井川の増水で川が渡れない
一回休み

おかべ
岡部



うつのやま
<宇津之山>

昼でも薄暗いさみしい峠道。
急いで進もう 一つ進む

二十一

まりこ
丸子



めいぶつちゃみせ
<名物茶店>

名物のとろろ汁を食べたら
元気がわいてきた 四つ進む

二十二

ふじえだ
藤枝



じんばつぎたて
<人馬継立>

荷物が重いので
馬をやとったら楽になった

★雑学メモ★
はたご
東海道を往復するには、旅籠代、
旅館代、わらじ代、舟代や人足代、
土産代など、今でいうとサラリー
マンの給料1ヶ月分ぐらいかかる
たという。

なるみ
鳴海

四十



めいぶつありまつしおり
<名物有松絞>

お土産に有松絞の帯を買う。
家族が嬉しいなあ

ふくろい
袋井

二十七



でぢややのす
<出茶屋ノ図>

五十三次のまん中の宿場。
あと半分、がんばろう！

あらい
荒井

三十一



わたしうねのす
<渡舟ノ図>

のんびりとした船旅は
今でいうなら浜名湖クルーズ

ちりゅう
池鯉鮒

三十九



しゅかうまいち
<首夏馬市>

馬の市場は多くの人で
にぎわっている。
初夏の草原が気持ちよくて
三つ進む

二十八

まいさか
舞坂

三十



いまぎりしんけい
<今切真景>

海のような浜名湖。新幹線から見える風
景とどう違うか、今度確認してみよう

しらすか
白須賀

三十二



しおみさかず
<汐見阪図>

えんしゅうだな
遠州灘の絶景ポイント。
大名行列は通り過ぎて行ったけど、
ゆっくり眺めてから行こう

おかざき
岡崎

三十八



やはぎのはし
<矢矧之橋>

東海道最長の矢矧橋は長さ約378m！
現在も十六代目の
橋がかかっている

みつけ
見附

二十九

ふじかわ
藤川

三十七



ぼうばなのす
<棒鼻ノ図>

幕府が宮中に献上する
名馬の行列に出会う。

正座をしてみんなに挨拶
をしよう

三十六



りょしゃしょうふのす
<旅舎招婦ノ図>

はたご
旅籠の中はこんな様子。

ルーペでよく見てみよう

ごゆ
御油

三十五

はままつ
浜松

二十九



ふゆがれのす
<冬枯ノ図>

寒い朝はたき火の大ありがたい。
温まってから進もう 一回休み

よしだ
吉田

三十四



とよかわほし
<豊川橋>

次の順番が来るまで、
天守閣の修復をする
職人と同じポーズをして待とう

★雑学メモ★

「瞽女」とは、目の見えない女
芸人のこと。はやりの歌や事件、
噂話などを歌いながら伝える、
江戸時代の情報配信業。



五十

水口



<名物千瓢>

水口の名物は千瓢。どうやって作っているか、**ルーペでよく見てみよう**

土山



<春之雨>

峠を越えたら土砂降り。
増水した川を渡る。疲れたなあ
一回休み

宮



<熱田神事>

熱田神宮によって、
残りの旅の安全を祈願する

五十一

石部



<目川ノ里>

茶店「伊勢屋」の名物は菜飯と
豆腐田楽。しっかり食べて
もうひとがんばり！**二つ進む**

四十八

阪之下

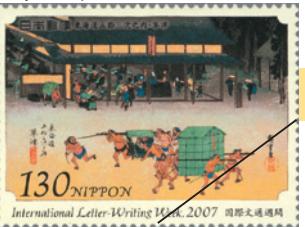


<筆捨嶺>

茶店から絶景眺めている二人は
「弥次さん、喜多さん」かな？

五十二

草津



<名物立場>

名物の姥が餅屋は大繁盛。
今も草津名物として有名なので、
いつか食べてみよう

四十七

関



<本陣早立>

鈴鹿の関所の本陣では、
大名行列が出発の準備で
大忙しだ

四十三

四日市



<三重川>

おっと笠を飛ばされた！
風が強くてなかなか先に進めない
一つ戻る

五十三

大津



<走井茶店>

琵琶湖の港町でもあり、
最大規模の宿場は
いつも大にぎわいだ

終点

ゴール



<三条大橋>

日本橋から約 492 キロ！
京都・三条大橋に到着！
長旅、お疲れ様でした！

四五

庄野



<白雨>

急な雨にみんなそぎ足。
一つ進む。この図と「蒲原」
が東海道五十三次の中で
傑作と呼ばれている

四十四

石薬師



<石薬師寺>

石薬師寺は奈良時代から
続く古い寺院

★雑学メモ★
「ほんじん」「わきほんじん」
「本陣」や「脇本陣」は大名
や公家が泊まる高級旅館の
こと。庶民は「旅籠屋」に
泊まっていた。